

## 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171400146		
法人名	社会福祉法人 敬聖会		
事業所名	グループホームききょう (和ユニット)		
所在地	函館市桔梗町557番地		
自己評価作成日	平成25年1月11日	評価結果市町村受理日	平成25年3月11日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kajigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2011_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0171400146-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kajigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2011_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0171400146-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あいビル7階
訪問調査日	平成 25年 2月 19日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームききょうの職員全てが、有資格者であり、利用者さんへのサービスは施設理念をもとに個別のケアにて自立した生活が送れるよう支援を行っており、生活相談員、看護師、介護士とそれぞれがもつ役割で連携を取り、利用者さんの生活の支えになれるよう、サービスを提供するように努めております。住宅街から離れた場所にあり、地域との連携がなかなか図れないのですが、運営推進会議にて町内会や包括支援センター等と密着した運営に努力しております。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは行政の要請を受け4ユニットを開設して12年目を迎えようとしています。医師でもある運営者は、同じ敷地内に医療機関や複数の介護施設を有しており、利用者や家族の安心に繋がっています。ホームは立地的に地域との交流は困難な状態ですが、ホーム主催の桜見物や夏祭り、運営推進会議には地域の方々の参加があります。近所の方が野菜を届けて下さったり、外出時の利用者の見守りを頂いています。また、定期的に訪れる乳飲料の販売やコンビニストアのホーム内での移動店舗を利用者は心待ちにしています。年4回の職員親睦会で職員のストレス軽減に繋げるなど、就業環境の整備が職員の高い定着率になっているようです。理念は基より、モットーである「ゆっくり」「いっしょに」「たのしく」を実践し、ケアサービスに努めている「グループホーム ききょう」です。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をスタッフルームに貼り、ミーティングや勉強会等で確認しあい常に念頭におきサービスにあたっている。	運営理念に加え「ゆっくり」「いっしょに」「たのしく」をモットーに掲げています。職員全員の協議による理念の見直しが行われましたが、現理念をホームの拠り所としてケアサービスに取り組む事を確認しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	二か月に一回の運営推進会議に町会役員の方に参加して頂き、意見交換を行っている。	地域との交流は立地的に困難な状況にありますが、隣接するケアハウスの方々との交流、研修等で来訪の高校生や職員の子供達との触れ合い、ボランティア受け入れ、ホーム主催の桜見物や夏祭り、地域の方々との交流のひとつを大切にしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	二か月に一回の運営推進会議に町会役員の方に参加して頂き、グループホームでの生活の様子や支援の内容を報告している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	花見や夏祭りを運営推進会議に取り入れ、地域・包括・家族の方々に参加して頂き意見交換の場所としている。	年4回の単独会議と行事に合わせた会議を2回開催しています。柔軟なメンバー構成の下、ホームの活動状況や避難訓練報告などに対し、メンバーと情報及び意見の交換があります。家族に議事録を配布することにより会議への関心が高まっています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	主に生活相談員が市町村担当者と連絡を取り合い、窓口となりサービスの状況を伝えている。	生活相談員が担当窓口を訪れた際にホームの実情を伝え、表出された課題の解決に向けて意見や情報を交換しています。担当者はホームに介護保険改正時や利用者の認定時等で来訪しています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間は防犯の為施錠しているが、その他は開錠している。身体拘束の研修に参加したり、ミーティング時に十分に話し合い拘束は行っていない。	身体拘束の具体的な行為や弊害については、外部研修やその後の伝達講習、新聞記事の事例を取り上げ、理解を深めています。不適切なケアと判断されるときには、職員間で注意し合う関係が構築されています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修に参加したり、ミーティングや勉強会等で確認、話し合い防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し、勉強会やミーティング等でスタッフと共有している。該当するような利用者がいた際は、活用出来るようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	生活相談員が契約時、退去時に家族や利用者の不安や疑問点を聞き十分な時間をとりながら分かりやすい説明を行えるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	エントランスにご意見箱を設置している。家族へ年に数回アンケートを出し意見を聞いたり来訪時や運営推進会議等も意見を頂き運営に繁栄させている。又、遠方の家族の方にも行事の写真やお手紙を添えて送付している。	家族には利用者の日常の様子をホーム便りや行事等での写真、個別の手紙等で伝えています。来訪時や電話、意見箱の設置、さらにホームの支援のあり方に対してアンケートを数回実施し、要望を把握しています。解決までの過程は記録しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りやミーティング時に機会を設け意見を聞けるようにしている。	理事長や施設長は毎日ホームを訪れ、全体像を把握しています。職員は、研修等の五つからなる委員会に所属しており、日常業務や会議等で施設長や管理者に意見や提案を伝え、質の向上に繋げています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	向上心を持って貰えるよう勉強会や研修に参加出来るよう促している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実践者研修等、個々のレベルにあった研修会への参加を促し、勉強会の内容の希望を聞き、個々のスキルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会等で他施設の職員と事例について話合ったり、意見を交換している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談の際には、会話の中から本人が思っている事を少しずつ聞きながら信頼関係が築けるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談だけでなく、電話にての相談や来訪時、不安や求めている事を聞く機会を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	規模に添えるようスタッフで話し合い、どのようなサービスが良いのかを話しながら、サービス提供している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で不十分な所はサポートしながら、本人の得意な事や知識を引き出し、支え合える関係作りに努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会等の来訪時に本人の状況を伝え、何かあった際はすぐ連絡するようにしている。又、今までの生活を踏まえどのようなケア方法が良いのか一緒に考えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・親戚の面会時はまた来てもらえるように声をかけたり電話や手紙でのやりとりが出来るよう代行したりしている。	職員は利用者の馴染みの人や場所との繋がりを尊重し、友人、知人の来訪時にはゆっくりと話しが出来るように配慮するなど、来訪しやすい環境作りに努めています。電話や手紙、年賀状の支援、出身地など懐かしい場所や神社、墓参りなどの訪れは、家族の協力も頂き職員が同行しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会話しやすいソファの配置工夫し、関わり合いが出来るよう場作りをしている。必要時にはスタッフが介入している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後もお見舞いに行ったり、家族の相談に乗ったりし関わりを持っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	関わりの中からその人の希望を聞き、困難な場合は家族へ情報を求めたり、スタッフ間で情報を共有しながら支援している。	職員は利用者の状態把握のために利用者の言葉、その状況を記録に残しています。日々の関わりでの気付きや、家族の意見を参考に情報を蓄積する中で利用者の意向を受け止めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に生活歴やバックグラウンドを詳しく探り、必要時には家族やそれまで関わっていたケアマネ等に情報を貰っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録や排泄チェック表を細かく記し申し送り等スタッフ間で情報を共有しながら現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族には面会時やカンファレンスにて意見を頂いたり、毎日の申し送りや月のミーティングにてスタッフ間で話し合い介護計画に活かしている。	介護計画は利用者の意向や、事前にケア記録を送付している家族からの意見を踏まえ、医療関係者の助言や介護記録を参考に、全職員の意見が反映されています。計画は、介護記録で確認しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿った記録は関わりで記入し、他に変わった事や気付いた事はなるべく詳しく残り、介護計画の見直し時に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来るだけ希望に添えるよう家族との外出に付き添ったり、行事がある際は一緒に参加したりとニーズに対応できるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	病院の売店や、良く利用する近隣のスーパーでは会計時困難な場合店員さんが手伝ってくれたり、荷物を持ってくれる等の配慮もしてくれている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	特変時にはすぐに医師から家族へ病状の説明を行ったり今後の事を話す機会を多く設け、情報の共有を密に行っている。	利用者や家族の意向に応じて、かかりつけ医への受診や専門医による往診支援を行っています。協力医療機関への受診や緊急時での往診支援も行うなど、適切な医療が受けられており、診療内容は関係者の共有としています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	バイタルや状態の変化があった際はすぐ看護師に相談し、支持を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	頻繁にお見舞いに行き、状態や今後の治療について看護師等から必要時情報を得ている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの指針や必要な説明事項は用意しており、必要時行っている。	重篤時に於けるホームの対応指針を、利用時と急変時に説明し同意書を交わしています。職員は看取りを経験しており、知識や技術習得に励み、ホームとして出来得る最大限の支援に努めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し備えており、AEDの講習も行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立ち合いのもと定期的に訓練しており、訓練時には他施設とも協力し行っている。又、都度地域の方に参加して頂けるようお手紙を出し、協力を得ている。	消防署の指導の下、年2回、昼夜想定避難訓練を実施しており、内容は運営推進会議で報告しています。非常時のマニュアルや防災点検表、連絡網は整備され、災害時備蓄品も隣接の介護施設から協力が得られています。	火災や地震のみならず風水害を想定しての実践的訓練を、運営推進会議のメンバーに見学をして頂き、災害時での役割や避難経路、屋外・屋内の避難場所の確認等を協議され、さらなる災害対策への取り組みに期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	失敗した時や、わからないような時は他者に気付かれないようにさりげなくフォローしたり場所を変えたりしている。	職員は利用者との関わりの中で、穏やかな言葉掛けや誇りを損なわない対応を心掛けています。個人情報も事務室に保管しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が難しい際は選択肢を与えたり、きっかけ作りをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その目をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決まった時間ではなく好きな時間に入浴や食事が出来るよう本人のペースに合わせてセッティングしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で着たい服を選んでもらったり、外出時には早めに声を掛け化粧や身だしなみを整える時間をとるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に盛り付けや茶碗洗いをしたり、食事の際は会話が弾むような場面作りや、話題を提供している。	御飯と味噌汁は、各ユニットで用意しますが、副菜は、隣接のケアハウスから届きます。誕生日には希望の食事を提供しています。毎月1～2回の昼食や、毎日のおやつを利用者と一緒に作るなど変化を付け、楽しい食事時間になるよう支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人にあった食事量や水分量を把握し、野菜が嫌いな人には飲みやすい野菜ジュース、青汁ヨーグルト等工夫し提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で行うのが困難な方にはスタッフが代行したり、介助をし定期的にボリデント洗浄もしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、定時のトイレ誘導ではなくその日の状態やサインに気づき対応している。	排泄チェック表は、医師の指導によるなど必要な利用者のみ記録しています。居室にトイレが設置されていることから、職員の言葉掛けや誘導、職員二人での支援により直ぐトイレで排泄することが出来、失敗の軽減に繋がっています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為に青汁ヨーグルト、野菜ジュース、牛乳を提供したり散歩等体を動かし予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	いつでも快適に入浴出来るように追い炊きをする等して入浴出来るようにしている。	週4回の入浴日を設けています。午前と午後、週2回以上入浴支援を行っています。希望により土・日曜日や夜間入浴も可能です。同性介助を基本とし利用者全員が職員の支援の下、浴槽に入っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠出来るように希望に沿った時間に居室を温めたり、湿度を保っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	どのような薬なのか内容をチェックし服薬変更の場合はこまめにバイタルチェックや状態観察をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	茶碗片付け等の家事作業やその人にあった趣味活動が行えるよう場作りしたり、常に好きなお茶やお菓子を用意している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物希望された際は出来るだけ直ぐ行けるよう調整している。又、法事や墓参りには家族に協力して頂き一緒に行っている。	広い敷地内で菜園や花壇を愛でたり、隣接の介護施設の自販機や売店での買い物、時には茶話会などで外気に触れています。ドライブを兼ね買い物や外食、観光地巡りを企画し、家族も参加して外出を楽しんでいます。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理出来るか見極め、管理出来る方にはお金を渡しており買い物時等出来るだけ自分で支払って頂いている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自室に電話のない方が希望の際にはスタッフルームの電話を使用して頂いたり、常に切手やハガキを用意しており手紙のやり取りが出来るようにしている。困難な方には必要な所のみ手を貸している。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	サロンには季節を感じられるような飾りつけをし、又、エントランスにもイベントごとにお雛様や、クリスマスツリー等を飾る事で共有スペースとして活用されている。	全体的にゆったりとした共用空間は、採光や温湿度、清掃に配慮されています。リビングキッチンには昔馴染みの食器棚や畳敷きの小上がり、壁面には行事の写真や千代紙のひな人形が展示されています。窓から見える冬景色や玄関ホールに飾られた雛壇は、利用者と職員に潤いをもたらしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人で過ごせるよう離れた場所にソファを配置したりみんなで談話しやすいように二人掛けソファを使い対面出来るように配置している。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた物を持って来てもらっており、本人が過ごしやすいしつらえをしている。	トイレ、洗面台、押し入れが設置されている居室には、ベット、ダンス、ちゃぶ台、仏壇、テレビ、加湿器等が安全に配慮して置かれています。写真や暦、趣味の物も飾られ、居心地の良さが感じられる生活空間になっています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室出入りに写真や表札をさげ自分の居室をわかりやすくしたり、その人にあった椅子を使用している。			